

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02178

研究課題名(和文) 応用倫理学への現象学的アプローチの方法論の確立

研究課題名(英文) Establishing a methodology for a phenomenological approach to applied ethics

研究代表者

吉川 孝 (Takashi, Yoshikawa)

高知県立大学・文化学部・准教授

研究者番号：20453219

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現象学的倫理学の特徴を明らかにした上で、応用倫理学の問題へアプローチする方法を示すことができた。現象学的倫理学は、人の経験に目を向けて、そこからさまざまな道徳的問題を考察する。この方法は、何らかの論争における主張を裏付けるために事例を検討するのではなく、人を範例とみなし、判断の正当性を問い直そうとするものである。人の経験は、文学や映画の芸術作品に描かれており、私たちはこれらを手掛かりに思考することができる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現象学的倫理学は、人の経験に目を向けることで、通常の世界の中で抑圧されているマイノリティの声を届けることができる。従来の応用倫理学は、中立的な観点から一定の基準を示すことで、政策提言に寄与することができた。これに対して、現象学的アプローチは、まだ論じられていない問題を当事者の観点から発見したり、問題に新たな観点を提供することができる。本研究でも、水俣病や違法のポルノ映画などの従来の応用倫理学が取り組むことのなかった領域において、成果を残すことができた。

研究成果の概要(英文)：This research clarifies the characteristics of phenomenological ethics and shows how to approach the problems of applied ethics phenomenologically. Phenomenological ethics looks at personal experiences and considers various moral issues from them. Rather than examining cases to support a claim in some controversy, this method considers people as exemplars and attempts to question the validity of judgments. People's experiences are depicted in works of art in literature and film, and we can use these as cues for our thinking.

研究分野：現象学を中心とする哲学

キーワード：現象学 倫理学 応用倫理学 環境 企業 水俣 ポルノグラフィ 芸術

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

現象学的倫理学への関心が今世紀に入って国内外で高まり、道德原則を提示するよりも、生き方という観点から行為者と規範との関係を探る手法が注目を集めている。しかし、看護研究からの倫理へのアプローチ(P.ベナー)などの例外を除いて、現象学は応用倫理学の課題に取り組んでいないため、現代倫理学で十分に受け入れられていない。20世紀後半に成立した応用倫理学は、功利主義やカント的義務論などの近代道德哲学の理論や諸原則を基盤としながら、そのつどの状況に応じた思考を展開している。そこでは、T.L.ピーチャム・J.F.チルドレスの原則主義とK.D.クラウザーやB.ガートによるその批判をめぐる論争のように、道德の諸原則と個別事例との関係が大きな問題になっている。こうした動向は、行為者がみずからの生き方のなかで道德原則といかにかわるかを考察する現象学的倫理学が、応用倫理学の基本問題の考察に寄与する可能性を示唆している。

## 2. 研究の目的

現象学的倫理学が、応用倫理学の問題に取り組む可能性を示して、その方法を確立することを目的とする。現象学的アプローチの特徴を際立たせ、その方法論を確立するために、誰がどのような立場から道德判断を下すのか・下すべきかという道德判断の視点の問題を検討するとともに、道德判断が具体的事例とどのように関連しうるのかという事例の意味を明らかにする。これらの検討は、応用倫理学にとって重要な意味をもっており、人の経験に目を向ける現象学的倫理学から新たな光が当たることになる。

## 3. 研究の方法

本研究は、応用倫理学への現象学的アプローチの方法論にかかわる文献研究として推進される。文献の購入や国内外の図書館での資料調査をおこない、資料を読解・検討して、論文や研究発表を通じて成果を公表する。しかし、本研究は、応用倫理学の歴史研究や現象学の文献研究をめざすわけではなく、あくまでも現象学的倫理学が応用倫理学としてもっている可能性を明確化して、応用倫理学の問題へアプローチする方法論の形成を目指している。本研究においては、現象学のみならず、倫理学全般、医学、看護学、法学、社会学などの研究成果との対話を必要としている。成果の発表に際しては、関連する他の分野の研究者を招いてのワークショップというスタイルを取り入れる。

## 4. 研究成果

2017年度には、編著の『ワードマップ 現代現象学』(新曜社)を刊行して、それ以降の研究の基盤を形成することができた。そこでは、現象学が現代哲学として持つ意味を検討した上で、現象学的倫理学が現代倫理学としてどのような可能性を持っているかを示した(第1章「現代現象学とは何か」、第6章「価値」、第9章「人生」を担当)。さらには、『倫理学論究』(関西大学)の二つの論文(「現象学的倫理学に何ができるか? 応用倫理学への挑戦」「現象学的倫理学における記述・規範・批判 品川哲彦氏からのコメントへの応答」)にて、応用倫理学への現象学的アプローチの可能性を示すことができた。これは、現代倫理学の研究者との論争を通じて、現象学の可能性と限界を明らかにしたものである。

2018 年度は、論文と書籍を発表することができた。そのうち、論文の「生き方としての現象学 私の実験にとどまる哲学と自然主義との別れ道」(『フッサール研究』16号)では、自然主義の哲学との対比のなかで、現代哲学としての現象学の可能性を明らかにした。「行為者と規範 現象学は現代倫理学のなかでいかなる独自性をもちうるのか?」(『フッサール研究』16号)では、フッサールの倫理学関連のテキストの解釈をめぐる議論を展開しながら、現象学的倫理学の現代的意義を明らかにした。また、「ブルーフィルム鑑賞者であるとはどのようなことか? 土佐のクロサワのために」(『フィルカル』3(2))では、1950年代から70年代に高知で制作された違法のわいせつな映画(土佐のクロサワの作品)の鑑賞経験を手掛かりにして、倫理学の問題を考察することができた。ポルノ映画と表現の自由をめぐる応用倫理学の問題に対して、現象学のアプローチを展開することができた。また、編著者として『映画で考える生命環境倫理学』(勁草書房)を出版して、とりわけ、序章「映画とともに思考するとき」においては、映画と結びつく倫理的思考の可能性を明らかにすることができた。この書籍は、直接的には、現象学に関連するものではないが、ドキュメンタリー映画と現象学的倫理学の親近性を考察する手掛かりになった。現象学的倫理学の現代的意義を確認しながら、応用倫理学の問題に関する論考においても成果をあげることができた。

2019 年度は、現象学的倫理学研究の中心に位置付けられる状況依存型の行為者に関する研究を発表することができた(『New Phenomenological Study in Japan』「Akrasia and Practical Rationality: A Phenomenological Approach」を担当 Springer 2019)。正当な道徳判断があっても、それに従うことができない意志の弱い行為者をめぐる問題を現象学の立場から明らかにした。さらには、日本倫理学会にて実施された現象学的倫理学をめぐるワークショップの企画を依頼され、報告することができた(「現象学的倫理学の最前線(主題別討議報告)」吉川孝・池田喬・小手川正二郎・八重樫徹、『倫理学年報』68号。差別、家族、共感などのテーマについて、3名の発表者が独自のアプローチを展開している。さらには、ポルノ映画の鑑賞経験から、性差別や表現の自由をめぐる問題を考察した(「ポルノ映画の現象学 ブルーフィルムを観ることとアナクロニズムの倫理」吉川孝、『立命館文学』第665号)。また、水俣をめぐる映画を題材にした道徳経験の現象学的分析を展開した(「道徳経験としての声を聴くこと 土本典昭における水俣病患者の声」吉川孝、『文明と哲学』12号)。

研究期間を延長した2020年度には、日本倫理学会の共通課題に招待され、「倫理学における芸術作品の使用と想像力の問題: フッサール、マードック、その後継者たち」を提題し、翌2021年の『倫理学年報』に論文が掲載された。これは、芸術作品を手掛かりに当事者の経験を明らかにすることが、倫理的思考につながることを指摘したもので、現象学からの応用倫理学の手法を明らかにする研究の最終的な成果になっている。この中で、現象学と「見方の倫理学」(I. マードック)や「道徳的完成主義」(S. カヴェル)との関係を指摘して、今後の研究の展望も開かれた。この論点は、『The Palgrave Handbook of German Idealism and Phenomenology』に寄稿した「Husserl's Idealism in the Kaizo Articles and Its Relation to Contemporary Moral Perfectionism」でも展開した(Palgrave Macmillan 2021)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 70
2. 論文標題 倫理学における芸術作品の使用と想像力の問題:フッサール、マードック、その後継者たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 倫理学年報	6. 最初と最後の頁 18-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 18
2. 論文標題 人生の意味を希求するフッサールの実存の記述 第42巻『現象学の限界問題』を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フッサール研究	6. 最初と最後の頁 95-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 12
2. 論文標題 道徳経験としての声を聴くこと 土本典昭における水俣病患者の声	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文明と哲学	6. 最初と最後の頁 56-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 665
2. 論文標題 ポルノ映画の現象学 : ブルーフィルムを観ることとアナクロニズムの倫理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 1031 - 1045
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝・池田喬・小手川正二郎・八重樫徹	4. 巻 68
2. 論文標題 現象学的倫理学の最前線	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学年報	6. 最初と最後の頁 86-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 16
2. 論文標題 行為者と規範 現象学は現代倫理学のなかでいかなる独自性をもちうるのか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フッサール研究	6. 最初と最後の頁 293-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 ブルーフィルム鑑賞者であるとはどのようなことか? 土佐のクロサワのために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フィルカル	6. 最初と最後の頁 86-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 16
2. 論文標題 生き方としての現象学 私の経験にとどまる哲学と自然主義との別れ道	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フッサール研究	6. 最初と最後の頁 173-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 16
2. 論文標題 行為者と規範 現象学は現代倫理学のなかでいかなる独自性をもちうるのか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フッサール研究	6. 最初と最後の頁 293-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝、池田喬、小手川正二郎、品川哲彦	4. 巻 33
2. 論文標題 現象学的倫理学に何ができるか? 応用倫理学への挑戦	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 vol.4, no.2
2. 論文標題 現象学的倫理学に何ができるか? 応用倫理学への挑戦	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 倫理学論究	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川孝	4. 巻 vol.4, no.2
2. 論文標題 現象学的倫理学における記述・規範・批判	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 倫理学論究	6. 最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 思想としての高知パルプ生コン事件
3. 学会等名 社会思想史学会第45回大会・セッション「公害・技術・抵抗：民衆の思想と技術者の倫理」提題
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 倫理学における芸術作品の使用と想像力の問題：フッサール、マードック、その後継者たち
3. 学会等名 日本倫理学会第71回大会：共通課題「想像力と倫理」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 フッサール新資料を読む（9）『現象学の限界問題』
3. 学会等名 フッサール研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 水俣病における痛みの共有をめぐって 土本典昭の記録映画と現象学的倫理学の可能性
3. 学会等名 フッセル・アーベント（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 共感と回心:水俣における加害者・被害者・観察者
3. 学会等名 間文化現象学研究センター・ワークショップ「倫理 - - 水俣からその根源をたどる」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 痛みの共有はいかにしてなされるか--水俣からの倫理学
3. 学会等名 瀬戸内哲学研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 現象学的倫理学の現在
3. 学会等名 日本倫理学会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 comments on Prof.Wang-I Yang
3. 学会等名 International Conference "What is Phenomenology? Ideas from East Asia"(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉川孝
2. 発表標題 高知県立大学における哲学教育の実践
3. 学会等名 日本現象学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Cynthia Coe, Jason Wirth, Markus Gabriel, Jon Stewart, Sebastian Gardnerほか17名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 590
3. 書名 The Palgrave Handbook of German Idealism and Phenomenology	

1. 著者名 de Warren, Nicolas, Taguchi, Shigeru, Yoshikawa, Takashi, Murata, Norio, Akiba, Takeshi, Tomiyama, Yutaka, Yaegashi, Toru, Sato, Shun, Murakami, Yasuhik, Ikeda, Takashi, Murai, Norio, Uemura, Genki, Kotegawa, Shojiro, Nagai, Shin	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 184
3. 書名 New Phenomenological Study in Japan	

1. 著者名 吉川孝、横地徳広、池田喬、信太光郎、瀧将之、渡名喜庸哲、山田圭一、佐藤香織	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 196
3. 書名 映画で考える生命環境倫理学	

1. 著者名 N, De Warren, S. Taguchi, T. Yoshikawa, N. Murata, T. Akiba, Y. Murakami, S. Kotegawa, T. Ikeda, N. Murai, S. Nagai, T. Yaegashi, S. Sato, G. Uemura, Y. Tomiyama	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 184
3. 書名 New Phenomenological Studies in Japan (Contributions To Phenomenology)	

1. 著者名 植村玄輝、八重櫻徹、吉川孝、富山豊、森功次	4. 発行年 2017年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 328
3. 書名 ワードマップ現代現象学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

吉川孝（研究者情報） <a href="https://www.u-kochi.ac.jp/site/research/yoshikawa-takashi.html">https://www.u-kochi.ac.jp/site/research/yoshikawa-takashi.html</a>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------